

平成25年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT25121

【プログラム名】探してみよう！職人の知恵と「形」



開催日：平成25年8月5日  
実施機関：長岡造形大学  
(実施場所)  
実施代表者：平山 育男  
(所属・職名) (造形学部・教授)  
受講生：中学生23人  
関連URL：

【実施内容】

造形の大学として“日本建築の見方の基礎”を学ぶとともに、受講者が建築における“職人の知恵と「形」”を自ら発見することをプログラムにおける目的とした。プログラムでは実施代表者が調査研究を実施した建物を用い、簡単な説明を行った後、中学生が当該建物の伝統的な職人の知恵とその結晶ともいえる「形」を自ら発見するものとした。

(1) 建物の説明：新潟県長岡市朝日に位置する朝日酒造の松籟閣にて実施した。松籟閣は昭和初期の建築で、プログラムの実施にあたっては、建物の説明は受講者に先入観を与えぬよう、建築年代と和室の見方など最低限のものに抑え、中学生自らが建物から職人の知恵や「形」発見するよう努めた。

(2) 写真撮影：写真撮影にはなるべく多くの時間を配分するように時間設定を行った。写真撮影に際しては、全自動の一眼レフカメラを1人に1台を用意することで時間の無駄を省き、見学・撮影時間の確保に努めた。カメラの使用方法は、写真を専門とする長岡造形大学の教授、職員及び学生が指導を行い、撮影が支障なく進行するよう配慮した。撮影途中でも不明な点があればいつでも質問できるよう人員を配置し、かつ安全配慮を行った。

(3) 講義：大学に移動し、松籟閣の建物で見ることできた職人の知恵と「形」について、実施代表者が講義形式で説明を行った。説明においては、造形の持つ意味、その形の成り立ちについて、なるべく多くの写真資料を用い、かつ中学生に質問を投げ掛ける参加型の形式で進めることにより、参加者の関心を引いた。

(4) 講評：参加者が撮影した写真を2枚選び、これを大型画面に写し出し、全員で鑑賞し、講師が講評を行った。これにより、各人がどのような発見をしたのかをお互いに確認するとともに、視点の違いや、多様な価値観があることを相互に学んだ。なお、この作品は参加者へは絵はがき大に印刷して配るとともに、素晴らしい作品が多かったことから、今回の成果を周知するため、作品をA3サイズに印刷し参加者の出身中学校へ送付することとした。

### ・当日のスケジュール

08:40 長岡造形大学集合 バス出発→大島中学校 バス停車／乗車  
09:00-9:30 朝日酒造にて受付  
09:30-10:00 開校式(あいさつ、プログラムについて、科研費の説明)  
10:00-10:30 『松籟閣』の建築美と技について  
10:30-10:45 写真の撮り方説明  
10:45-12:00 『松籟閣』の見学／写真撮影  
12:00-12:30 移動(松籟閣→長岡造形大学)  
12:30-13:30 昼食 / 休憩  
13:30-14:20 講義「日本建築の技と美」  
14:20-14:30 休憩  
14:30-15:05 学校内見学  
15:05-15:20 ブレイクタイム  
15:20-16:00 作品の講評会  
16:00-16:30 修了式  
16:30 長岡造形大学解散 バス出発  
16:40 大島中学校 バス停車／解散

開校式



松籟閣における説明



カメラ取り扱い方法の説明



撮影風景



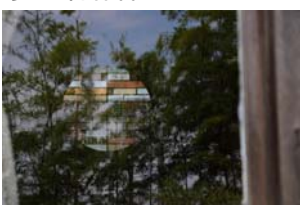
講義



修了式



参加者作品



### ・事務局との協力体制

- (1) 委託費は、本学事務局財務課財務係が管理を行い、支出報告書の確認を行った。
- (2) 日本学術振興会との連絡・調整は、本学事務局学務課教務係が実施した。
- (3) 事務担当者が実施代表者と近隣の中学校へ参加者の募集のPRに直接赴いた。

### ・広報体制

- (1) 全体広報は、実施代表者及び事務担当者が近隣の中学校へ赴き、本事業の説明、参加勧誘を実施した。
- (2) 本事業についてのポスター、フライヤーなどの宣伝媒体は本学視覚デザイン学科に所属する専門の教員である吉川が制作を担当し、造形の大学らしい質の高いもので、募集案内を図った。

・安全体制

(1) 受講者、本学教職員を除く実施分担者及び実施協力者は保険に加入した。なお、本学教職員は職員としての大学加入保険が摘要された。

(2) 写真撮影の実施時は、安全管理のため、受講生4人に1人の割合で実施者又は実施協力者を配し安全に対して配慮した。

(3) 写真撮影の実施時には、エアコンが設置された涼しい部屋を用意し、気分が悪くなった参加者がいた場合の対応を準備した。

(4) 中学校教員に引率として参加していただき、緊急の事態にも対応できるよう配慮を行った。

(5) 受付時及び昼食時、受講者に対し水分を配付し、脱水症状等の対策を行った。

・その他、「造形」を身近に感じる手立てとして

(1) 参加者へ造形性に富んだフライヤーを郵送した。

(2) 参加者には当日、松籟閣内にある模様や形を染め抜いた「手ぬぐい」を配り、「探す」要素も取り入れ、興味を持たせるよう努力した。また、実施当日は暑いため、暑さ対策としても使用できるよう配慮した。

(3) 参加者が撮影した作品を、写真を専門とする教員が1人2枚選び出して「写真葉書」として持ち帰ってもらい、当日の記念・記録とした。

(4) 参加者が撮影した作品を、写真を専門とする教員が1人1枚選び出し、A3サイズにて印刷し、所属中学校に送付することとした。

・今後の発展性、課題

(1) 生徒の撮影した写真を今回は葉書として持ち帰ったが、素晴らしい作品が数多くあった。展示等を行う機会があってもよいと思われる。

(2) 近隣にある国の登録有形文化財を身近に感じることができ、大学での研究に興味を持ってもらえた。

【実施分担者】

松本 明彦  
吉川 賢一郎  
西澤 哉子

造形学部視覚デザイン学科・教授  
造形学部視覚デザイン学科・准教授  
長岡造形大学・研究員

【実施協力者】           4名          

【事務担当者】

中村 時宗

学務課教務係・教務係長